

## 歴史散歩・遠友夜学校の時代① ―清華亭とその界限編―

☆ 遠友夜学校時代を追体験しながら、街の成り立ちを探り、札幌の今と未来を考える

☆ 主催：一般社団法人 新渡戸遠友リビングラボ ☆日時：7月5日(土)午前10～12時 雨天時7月12日(土)に順延

☆ 集合時刻・場所：午前9時50分・JR札幌駅北口(西コンコース、理髪店「QBハウス」の前)

☆ 案内人：札幌建築鑑賞会 代表 杉浦正人氏 費用：700円(資料・傷害保険料含)

☆ 問合せ・申し込み：本会事務局(三上)まで、電話：011-577-1441 FAX:011-241-1150

Eメール：info@nitobe-enyu.org

申込み締切り：6月28日(土)

| 順番         | 場所                                        | 見どころ なぜ? なに? ポイント                                                                                                                                                 |
|------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 集合・出発<br>↓ | JR札幌駅 北口<br>(300m)                        | 高低差あり。札幌駅立地を物語る扇状地の扇端の微地形。                                                                                                                                        |
| 見どころ①<br>↓ | 北7条西5丁目<br>カフェ&バー ロガ<br>(150m)            | 明治後期建築と伝わる石蔵が現在、カフェバーとして再利用されている。この石蔵は、画家・三岸好太郎の父が経営を任された質店の蔵だった。好太郎も幼少の一時期、ここに居住した。この界限は明治末から大正期、能勢真美らも住んでいて、芸術の香りが漂っていた。                                        |
| 見どころ②<br>↓ | 北8条西5丁目<br>旧松村松年宅<br>(博多ぶあいそ別邸)<br>(200m) | 明治30年代、札幌農学校の校舎が移転してきたことに伴い、教授たちも周辺に住まうようになった。当時の住宅として現存する2棟のうちのひとつが、飲食店として再利用されている。明治期の洋風建築の面影が外観から感じられる。このあたりには明治中頃、新渡戸稲造が教えた北鳴学校があった。                          |
| 見どころ③<br>↓ | 北大正門 界限<br>(200m)                         | 西5丁目・樽川通に沿って、外構に石塀が積まれている。この石塀から、土地の成り立ちが読み取れる。正門の近くには、新渡戸稲造夫人・メリーが寄贈したハルニレの老樹が残る。農学校校舎の新築に伴い、1905(明治38)年に植えられたという。                                               |
| 見どころ④<br>↓ | サクシュ琴似川の<br>原風景<br>(250m)                 | 北大構内を流れるサクシュ琴似川は現在、人工的に導水されたものだが、元は扇状地の端(扇端)の湧泉から発していた。その原風景ともいえる地形がうかがえる。                                                                                        |
| 見どころ⑤<br>↓ | クラーク像<br>(100m)                           | 1926(大正15)年建立。1931(昭和6)年、新渡戸が最後に札幌に来たとき、この像の前で松村ら北大教授と記念撮影。この場所はサクシュ琴似川の河畔からやや小高くなっている。農学校校舎の移転前、この場所には何があったか。                                                    |
| 見どころ⑥<br>↓ | サクシュ琴似川の<br>吐口工<br>(250m)                 | 2004(平成16)年、札幌市との共同事業により、藻岩浄水場の放流水を利用して復元された。中央ローンにその吐口工が設けられている。<br>(トイレ休憩・クラーク会館)                                                                               |
| 見どころ⑦<br>↓ | 阿部さん宅<br>(300m)                           | 北大周辺に現存する札幌農学校時代の教授宅の一つ。土木工学科教授・坂岡末太郎が住んだ。坂岡は1894(明治27)年、農学校卒業。新渡戸が教鞭を執っていた時期である。大正期、札幌区長を務めた阿部宇之八が移り住んだ。阿部は「札幌史学会」で講演している。2024年、札幌市の「地域文化財」認定。現所有者は公開活用を模索されている。 |
| 見どころ⑧<br>↓ | 偕楽園緑地<br>(150m)                           | アイヌ語で「ヌフ・サム・メム」(野の傍らの泉池)と呼ばれた湧泉が発していた。窪んだ地形が名残をとどめている。明治の初め、開拓使によって近代的な公園の嚆矢となり、産業施設も設けられた。なぜ、「偕楽園」だったのだろうか。                                                      |
| 見どころ⑨<br>↓ | サクシュ琴似川<br>(200m)                         | サクシュ琴似川の流路が、今も街区の中の地割から読み取ることができる。                                                                                                                                |
| 終点・解散      | 清華亭                                       | 偕楽園の風致を取り込んで、1880(明治13)年、貴賓接待所が設けられた。新渡戸はここで1881(明治14)年、農学校卒業を前にして内村鑑三、宮部金吾と将来を語り合ったという。同年9月、行幸した明治天皇はここで休憩した。                                                    |

全行程：約2.1km・約2時間(各見どころでの滞留時間も含む)